

「鉄道特性活性化基本戦略」策定に向け

建設的な議論を展開！

～鉄道特性活性化P T第5回会合開催～

J R連合は、3月3日、議員会館で鉄道特性活性化プロジェクト（以下P T）第5回会合を開催した。会合には、新座長の小川淳也衆議院議員（香川1区）はじめ、同秘書、アドバイザーの専修大学太田和博教授、単組の代表者、J R連合役員ら16人が出席し、活発な意見交換を行った。

冒頭、本P Tの座長であった三日月大造元衆議院議員が、昨年7月の滋賀県知事選挙において当選したため座長ポストが空席になっていたことを受けて、この間三島貨物経営安定化P Tを座長として所管頂いた小川淳也衆議院議員（J R連合国会議員懇談会事務局長）に座長へ就任頂く旨提案し、了承された。また、各単組においても、一部役員改選等に伴う委員の交代等も合わせて了承を得た。

その後J R連合松岡会長が挨拶に立ち、「交通政策基本法が制定、交通基本計画が閣議決定された。公共交通を巡る動きが加速している。その動きに先んじて取り組みを開始したのが本P Tである。新幹線やリニアといった面が協調されているが、地方では厳しい局面に立たされているのも事実であり、とは言え鉄道の持つ公共性をどのように発揮していけば良いか、将来を見据えた建設的な議論を要請する。」と述べた。

アドバイザーの太田和博専修大教授からは、「鉄道がどうあるべきかは永遠の課題。議論を尽くし、良い成果に結びつけたい」と意気込みが示され、さら



に小川淳也座長（衆議院議員）からも、新座長就任にあたっての挨拶が述べられた。

議事では、事務局より、決して目先にとらわれることなく、大局的な見地に立って議論を展開し、ＪＲに働く我々が希望を持って業務に従事できる環境を創り出すための方策について検討を進めることを軸とする今後の取り組み方針が提起された。

そして、その活動の軸をなす「鉄道活性化基本戦略」を事務局が提起した。当該基本戦略では、これまでの活動で蓄積してきた成果をふんだんに盛り込みつつ、大きくわけて成長戦略が期待できる分野での取り組みの方向性と、公共的使命を担い続ける役割の発揮に区分けし、それぞれに対する具体的政策提言が示された。



その後の意見交換では、「鉄道特性」についての基本認識をメンバー間で合わせておくべきといった意見や、「チーム公共交通」の観点から一歩進んで、鉄道の役割と自動車との共存共栄についても検討を進めるべきといった様々な意見が出され、事務局からは、示された意見を踏まえた「基本戦略」を改めて策定・構築する旨の答弁がなされた。さらに、基本戦略の策定に際しては、今後も直接現場に足を運び、実態把握を丁寧に行っていく考えも併せて示され、全体で確認がなされた。

人口減少や少子化、高齢化が進み、地方路線では沿線人口の減少を通じて利用者減少が顕著となっている。しかしながら、大量、正確、安全、高速等の特性を有する鉄道は今後もその有する価値を存分に発揮し、社会を支える重要なインフラとしての役割を全うしなければならない。ではどうすればそうした役割を引き続き果たし得るのか、当PTでは今後もその方策の検討を行っていく。